

## 平成 29 年度 研究計画書

Research Plan FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ講座・教授
氏名 Name	村上 忠良
専門分野 Academic Field	タイ地域研究・文化人類学

### 平成 29 年度 研究計画 (ホームページで公開) Research Plan FY2017 (Post on Website)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	宗教実践における声と文字—仏教書文化からみたシャンの在家朗誦				
研究計画 (400 字～500 字で記入すること。) Research Plan (Approximately 100 Words)					
<p>東南アジアの上座仏教徒社会では、パーリ三蔵經典や注釈書に加えて、東南アジア地域内で著作された様々なジャンルの仏教文書を継承しており、それらを功德の源泉として、宗教儀礼などで朗誦したり、供物として供えたりしてきた。このような仏教文書に関わる実践は、テキストの内容とともに、文書の存在意義を構成している。本研究では、仏教文書の崇拜、奉納、朗誦、書写、保存、継承といった宗教実践を「仏教文書文化」と捉え、その事例研究として、シャン語・シャン文字で書かれた仏教文書の朗誦を研究対象として取り上げ考察をする。伝統的に朗誦と拝聴によって人々に享受されてきたシャンの仏教文書は、記述された内容を読者個人が黙読を通して受容し、鑑賞するという近代文学の書物とは性格を大きく異にしており、シャンの仏教文書の諸特徴の中で朗誦という声を媒介としたテキストの享受(共有)の形態に注目し、読み手(朗誦者)や聴き手(拝聴者)の関係について検討する。今年度は特に、女性在家信徒による「転法輪經」(タンマチャッキー・シャン語)の朗誦に焦点を当て、シャンの仏教文書の朗誦の特徴を明らかにする。</p>					
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research *1	文化人類学・民俗学	宗教学	中国哲学・インド哲学・仏教学	東南アジア地域研究	
キーワード Keywords*2	宗教実践	声と文字	上座仏教	經典・聖典	シャン